

## 令和2（2020）年度 部局マネジメント方針

よしむら やすあき  
上下水道局下水道部長 吉村 靖明



### 仕事に対する基本姿勢及び部局の取り組み方針

本市の公共下水道は、市民サービスを担う企業（地方公営企業）として、「経済性の発揮」と「公共の福祉の増進」を運営原則に事業の推進を図っています。平成20年4月より企業会計方式の活用により財務情報の透明化に努め、さらに平成25年4月より下水道事業の経営を市長から任された事業管理者のもと、経営マインドの醸成を進めてまいりました。現在、人口減少社会に入り、地方財政の状況が厳しさを増す一方、施設の老朽化に伴う大量更新時代を迎えようとしている経営環境を踏まえ、公営企業として経営基盤の強化と財政マネジメントの向上に取り組んでまいります。

また、市民の安全・安心な生活を守るため、既存の施設の最適な維持管理を行っていくとともに、集中豪雨や地震による被害の軽減に向けた対策を、引続き推進してまいります。

### 令和元年度の振り返り

近年全国で激甚化している災害状況から、平成30年12月に「国土強靱化基本計画」が見直され、「防災・減災、国土強靱化のための3ヶ年緊急対策」として集中的に取り組まれています。本市においても、「新岸田堂幹線」の整備や、最近の被害箇所における対策をこの3ヶ年緊急対策に位置づけ対策を進めているところです。これまで推進している増補管事業については、新岸田堂幹線の進捗により、令和元年度末で進捗率が94%に達しました。老朽化・耐震化対策については、「東大阪市下水道ストックマネジメント計画」および「東大阪市下水道総合地震対策計画」により、根幹施設であるポンプ施設の改築や、優先度の高い管渠の耐震化を進めてまいりました。

一方、今後日本社会における人口の減少により、下水道使用料収入の低下が見込まれる中、厳しい経済環境においても、安定的な下水道サービスを持続させるため、「経営戦略」（中長期的基本計画）の策定を進めています。令和2年度の完成に向け、令和元年度は経営戦略の計画期間における収支計画について検討を進めてまいりました。

大いに盛り上がったラグビーワールドカップ2019ですが、下水道事業においては、花園ラグビー場周辺のアクセス道路上にあるマンホール蓋をワールドカップ仕様にリニューアル

ルし、日本のみならず世界の人々に向け足元から盛り上げてまいりました。このマンホール蓋は、貴重なレガシーとして今後も「ラグビーのまち東大阪」と下水道のPRを担います。